

東三河産品PR 調理、販売車導入

豊橋の農業グループ

東三河地方を中心に活動する農業経営者のグループ「豊橋百農人」が、地元産の食材を調理、販売できるキッチンカーを導入し、12日、豊橋市役所でお披露目した。写真。

豊橋百農人は米、果物、肉、茶など、安全でおいしい産品を作ること、東三河地方の農業の活性化を目指すとともに、地元産の豚



肉を使った丼も商品化しており、豊橋市も活動を支援している。

キッチンカーは、新車の軽トラックの荷台を改装して、炭火や発電機による電氣を使い、肉料理や冷たい

飲み物を作ることができるようになっている。

12日は昼前に同市役所前の広場に乗り入れ、弁当、レトルトカレー、紅茶、イチゴとブルーベリーを使ったスムージー（シャーベットの状の飲み物）を作り、販売した。市民や市職員が集まり、買い求めていた。

百農人代表の鈴木義弘さん(43)は「機動的なキッチンカーを活用して、市内外のイベントで東三河の農畜産品をPRしていきたい」と話している。